

■ 色彩計画

資料5-1

(1) 歩道舗装の整備デザイン方針

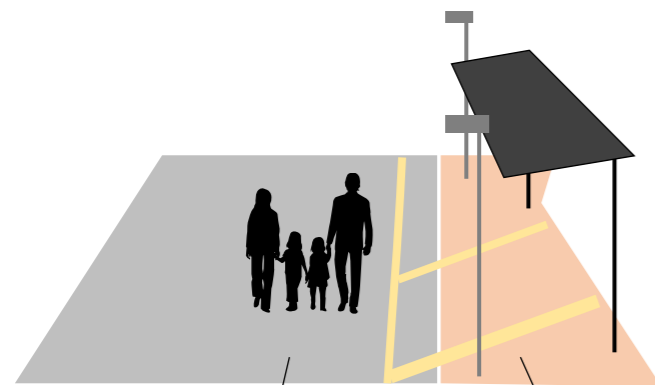
1. 駅前広場整備方針に従い、歩道舗装には標準的な製品を採用します。
2. 歩行者空間の舗装材は、透水性舗装とし、滑りにくく、凹凸の生じにくい(不陸の起きにくい)製品を採用します。
3. 舗装材は、高低差処理と歩道幅員が広いことを考慮して、300角のインターロッキングを使用します。
4. 誘導ブロックとその周囲の舗装材との間で一定の<sup>\*</sup>輝度比を確保します。  
(舗装に使用される色彩の種類が増え、舗装面がはん雑になる可能性が高いため、輝度比を確保するための縁取りを行わない色彩を採用します。)

<sup>\*</sup>輝度比とは、異なる物体間のコントラスト比のことであり、コントラスト比が高いほど濃淡が強いことを示します。  
<sup>\*</sup>誘導ブロックの配置は、今後関係団体との協議結果により変更となる可能性があります。



輝度比を確保するために縁取りが行われている事例

パターン1: 通行・滞留空間の分離を強調した舗装デザイン



**特徴**  
 通行空間と施設帯・滞留所空間を舗装デザインで分けることで、分節された空間が線状として認識されやすい。そのため、円滑な歩行者通行が期待できます。現在の蒲田東口駅前広場内でも取り入れられている舗装パターンです。

通行空間

施設帯・滞留所空間

誘導ブロックは、照明の光が当たりやすい位置に設置する方針とします。

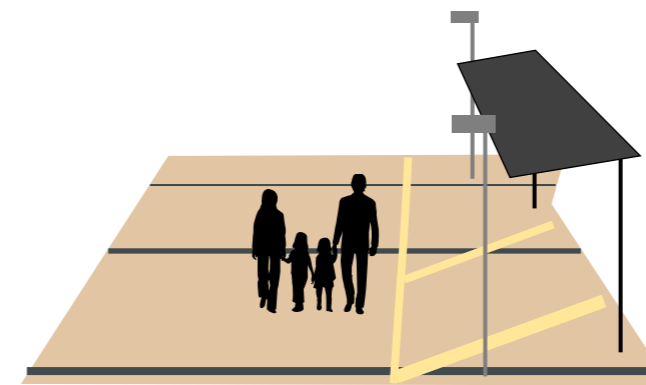


柏の葉キャンパス駅 西口駅前広場



池袋 グリーン大通り

パターン2: 進行方向を強調した舗装デザイン



**特徴**  
 進行方向に向かって垂直にストライプ(帯パターン)を配置することで、視覚的な変化を付けます。空間が1つの面として認識されやすくなります。

誘導ブロックは、照明の光が当たりやすい位置に設置する方針とします。



有楽町駅周辺



自由が丘 九品仏緑道

## ■ 色彩計画

### (2)色彩計画の基本方針

1. 蒲田東口駅前広場では、①舗装と②道路照明や防護柵などの施設に採用する色彩についての基本色を定めます。
2. 「大田区景観計画」(H25.10)との整合を図ります。

### (大田区景観計画における色彩の考え方)

大田区を特徴づけるみどりや水辺を活かすという視点から、建築物、工作物の色彩はその背景として、比較的落ち着いた色彩を基調とし、周辺と調和した色彩を使用することとします。

◇地域の特性を踏まえた色彩を基本とします。

◇原色に近い鮮やかな色彩の使用や極端に明るい白や暗い黒は避け、周辺環境と調和した色彩を基本とします。

◇緑の多い地域では、緑地等との調和に配慮し、暖色系の色彩の使用を基本とします。

◇周囲から突出しないよう、色の組み合わせや、塗装パターン等の配色に配慮した色彩計画を誘導します。

### 東口駅前広場を取り囲む色彩(現況)



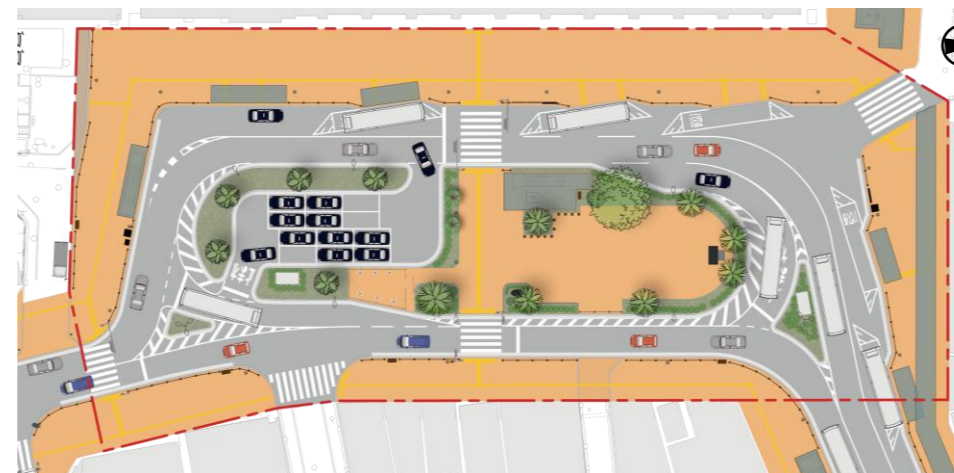
#### 西側

ベージュ系とダークブラウン系を中心とした色彩が用いられていることから、比較的落ち着いた印象を受けやすい。



#### 南側

オフグレー系の色彩を用いている建物が多いこと、建物見付面積が小さく視線の抜け良いことから、比較的開放的な印象を受けやすい。



#### 北側

大きさの異なる看板が並んでいること、原色が多用されていることから、比較的是ん雑な印象を受けやすい。



#### 東側

大きさの異なる建物や看板が並んでいること、原色が多用されていることから、比較的是ん雑な印象を受けやすい。

■ 色彩計画

資料5-3

(3)個別施設色彩方針

①舗装

舗装の基本色は右表※「大田区景観計画」の中で定められている範囲から色彩を選定し、以下のとおり蒲田西口駅前広場もしくは京急蒲田西口駅前広場との連続性を考慮して、案1:暖色系と案2:寒色系の2案を検討します。

※マンセル値とは…  
マンセル表色系の中で示される色彩に関する情報であり、色相、明度、彩度の3属性によって記述されます。

※表.「大田区景観計画」の中で示される基本色(市街地類型)

	参考色	連続性を考慮する駅前広場	景観アドバイザーのコメント
案1: 暖色系 (茶・ベージュ系)		 蒲田西口駅前広場	暖かみを感じやすい色彩である。 植栽との相性が良い色彩である。 既設の商店街アーケードの色彩との調和を考慮する必要がある。
案2: 寒色系 (グレー系)		 京急蒲田西口駅前広場	①舗装: 寒色系かつ②道路照明や防護柵などの施設: グレー系の組み合わせの場合、引き締まった印象の空間となり、現在の蒲田東口の印象から大きく変わる可能性がある。

	色相	明度	彩度
無彩色	N	4以上	—
有彩色	0R~4.9YR	4以上8.5未満	4以下
		8.5以上	1.5以下
	5.0YR~5.0Y	4以上8.5未満	6以下
8.5以上		2以下	
その他	4以上8.5未満	2以下	
	8.5以上	1以下	

②道路照明や防護柵などの施設

以下のとおり「景観に配慮した道路附属物等ガイドライン」に示される色彩の中から舗装で選択された色彩とバランスの取れるものとしします。

表.「景観に配慮した道路附属物等ガイドライン」の中で示される基本とする4色

	名称	マンセル値	参考色	使い分けの留意点 (○:長所 ◇:短所)	景観アドバイザーのコメント
1	ダークグレー (濃灰色)	10YR 3.0/0.2		○都心部や駅周辺など、景観をコントロールする場合の使い勝手が良い ◇塗装面が大きい道路附属物等への使用や、開放的な沿道空間のある道路での使用は、重たい印象となることがある	市街地の景観に合わせやすい色彩である。 周囲とのコントラストが付きやすい。
2	ダークブラウン (こげ茶色)	10YR 2.0/1.0		○明度、彩度が低いため歴史的な街並みと調和しやすい ◇塗装面が大きい道路附属物等への使用は、重たい印象となることがある	歴史的な街並みで採用されることの多い色彩である
3	オフグレー (薄灰色)	5Y 7.0/0.5		○周辺が比較的明るい色彩を基調とする地域の景観と調和しやすい ◇明度が高いため、夜間景観において光を反射して必要以上に目立つ場合がある	目立ちにくく、周囲の景観に溶け込みやすい。
4	グレーベージュ (薄灰茶色)	10YR 6.0/1.0		○開放的で明るい色彩を基調とする地域の景観と調和しやすい ◇明度が高いため、夜間景観において光を反射して必要以上に目立つ場合がある	-